

連携先世界遺産： 清水寺

京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

(本科目が取り組んだ課題・改善事項等)

座学・実地調査を通して、文化遺産とそれを取り巻く歴史地域の価値と重要性を学び、文化遺産を核とした地域の災害対策のあり方について検討する

■受講生

安達 愛乃 (立命館大学・理工学部・2回生)、梅澤 莉々子 (立命館大学・理工学部・2回生)、大久保 藍 (立命館大学・理工学部・2回生)、大西 くるみ (立命館大学・理工学部・2回生)、河合 駿 (立命館大学・政策科学部・3回生)、川澄 美勇士 (立命館大学・理工学部・4回生)、木村 明日香 (立命館大学・法学部・1回生)、泉水 南海 (立命館大学・理工学部・2回生)、田口 陽葉 (立命館大学・政策科学部・1回生)、谷口 諒平 (立命館大学・理工学部・3回生)、辻井 瑛寛 (立命館大学・経営学部・1回生)、生川 志穂子 (立命館大学・理工学部・1回生)、伯井 智香子 (立命館大学・政策科学部・2回生)、橋本 丞理 (竜谷大学・文学部・3回生)、HU Kouzi (立命館大学・理工学部・3回生)、前澤 泰陽 (立命館大学・文学部・3回生)、前田 賢伸 (立命館大学・法学部・4回生)、山根 那月 (京都教育大学・教育学部・4回生)、渡士 晴菜 (立命館大学・経営学部・2回生)、渡邊 彬史 (立命館大学・理工学部・2回生)、渡部 七波 (立命館大学・理工学部・1回生)

■担当教員

大窪 健之 (立命館大学・理工学部・教授)

活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間400万人の参拝者が訪れる日本を代表する寺院の1つです。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備について、座学と実地調査を通じて学びます。例えば、清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として、昭和18年頃から「清水寺警備団」による巡回警備等が行われてきました。また、地震による大火から守るため、京都市では平成18年度から清水・弥栄地域を対象に「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開し、全国最大規模の耐震型防火水槽や、誰もが容易に使用できる市民用消火栓等を整備するなど、地域の防災力強化にも努めてきました。実地調査では、上述したような内容を念頭に置いて、グループごとに境内と周辺地域の調査を行います。最終的に、調査結果を踏まえたグループワーク「災害図上訓練DIG」を行い、文化遺産を核とした地域の災害危険性と災害対策の在り方についてグループごとにアイデアを練り、最終的な成果のとりまとめを行います。



境内の設備見学



周辺地域の実地調査



災害図上訓練



成果発表

◆主な活動

- 2022. 9. 4 講義ガイダンス+歴防研究所の活動紹介
- 2022. 9. 4 清水寺とその歴史について
- 2022. 9. 4 清水寺と地域の防災活動に向けた取り組み
- 2022. 9. 4 清水寺とその災害について1
(災害史を古文書から読み解く)
- 2022. 9. 5 境内見学、設備見学および実技体験
(防火水槽、ドレンチャー、放水銃等)
- 2022. 9. 5 文化遺産の保存と管理について
- 2022. 9. 5 フィールドワーク1*各地において事業の説明
(市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc)

- 2022. 9. 5 フィールドワーク2*グループ毎に現地調査
(地域の災害危険性、防災資源、etc)
- 2022. 9. 6 清水寺とその災害について2
- 2022. 9. 6 清水寺周辺地域の防災水利整備事業
- 2022. 9. 6 災害図上訓練1(実技・ワークショップ実施)
- 2022. 9. 7 災害図上訓練2(発表+総括・講評)
- 2022. 11. 2 成果報告会に向けた具体化の作業1
- 2022. 11. 16 成果報告会に向けた具体化の作業2
- 2022. 11. 30 成果報告会に向けた具体化の作業3
- 2022. 12. 06 成果報告会に向けた具体化の作業4
- 2022. 12. 11 成果発表

活動の成果

本講義の中で、受講生が着目した「清水地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通して、各班からは【表1】のような多くの問題点が挙げられました。その中でも、特に「災害時における観光客や地域住民の逃げ遅れ」が懸念され、重大な問題であることが確認されました。そして、こうした問題を念頭に災害図上訓練（DIG）を行った結果、円滑な避難を実現させるためにも、「避難経路・避難場所の確保」や「避難誘導」をどのように行うかが課題点として挙げられました。このように文化財やその地域を守るために、受講生自身が地域の災害危険性について調査・考察を行うことで、文化遺産を守りつつも、次世代へと伝えることの実情と難しさをより学ぶことができたのではないかと思います。

－ 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 － 【表1】

- 1班：一時避難所が少ない、避難道が歩行者と車両で混雑し避難者や緊急車両の通行が円滑に行えない
- 2班：停電発生時には夜間の避難誘導が難しい、消防団員の不足と高齢化、地域間での防災意識の格差
- 3班：上水道停止時には消防用水が不足する恐れ、避難誘導の人手が不足、避難経路がわかりづらい
- 4班：訪日外国人や修学旅行生など土地勘の無い観光客への避難誘導が難しい

－ 災害図上訓練（DIG）により明らかになった防災上の主要課題 －

- 避難経路・避難場所の確保や避難誘導

本講義の中で、受講生が提案した「防災上の課題における対策」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの対策アイデアが挙げられました。

－ フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 － 【表2】

- 1班：駐車場や宿泊施設の一時避難利用、避難経路を車両と歩行者で分離・人力車等の職員による誘導
- 2班：ソーラーパネル付提灯の設置、消防団の体験イベント実施やSNS・HPによる積極的な情報発信
- 3班：井戸等の地域水資源の把握と活用、避難標識や音声アナウンスの活用、灯籠等で避難道を点灯
- 4班：消防団中心の避難誘導體制を構築、アプリ型防災マニュアルとオンライン防災マップの開発

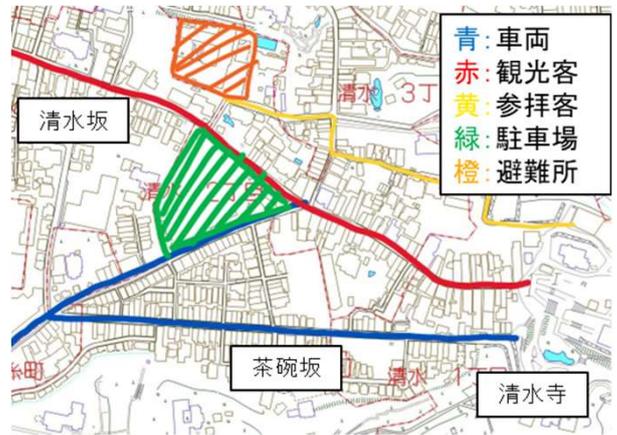
これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われまます。



▲ 景観に配慮された市民用消火栓



▲ 危険箇所をプロットした地図（災害図上訓練より）



▲ 防災上の課題における対策例
受講生よりも歩車分離型の避難ルート



活動を振り返って

- 講義を通して、大切なことを3つ学ぶことができました。1つ目は、災害を自分ごと化することです。自身の防災意識がいかに低く、防災対策には時間も労力もお金もかかり、一筋縄ではいけないことを痛感できました。2つ目は、複数の災害が起こった時の最悪の事態への対処法です。火が消せない、道路が塞がっている、そんな状況でどう対処するかという対応力が求められました。そして3つ目は、DIG を通してのグループワークの重要性です。1人ではおよそ考え得なかった案、出た案を繋げることでより実践的な方向に進む案、意見を出し合う意義を見いだすことができました。4日間で得た経験はとても貴重なものになりました。
- これまで清水寺の歴史や文化についてなど学ぶ機会があったのですが、実際に清水寺を隅々まで回り、地域住民のお話も聞くなかで、これまで見えてこなかった建造物としての迫力や、宗教施設としての美しさ、人々が寄せる愛着を感じることができました。
- 4日間の授業では、清水寺をまもるということは、「地域の人々との繋がり」と「当事者意識をもつこと」が重要だと学ぶことができました。
- 災害図上訓練（DIG）では、地域が最悪の事態に陥った状況を考えるため、防災において日常に重要であると感じました。それと同時に、防災についての知識が浅はかなものであったのかを痛感しました。地元の自主防災組織にもDIGを取り入れたいと感じました。
- 4日間の授業の最も大きな成果は、今まで考えたこともなかった事柄に目を向けられるようになったことです。文化財における災害は、この講義を受講していなければ、今後ずっと考えることがなかったと思います。これからは、今回のこの講義のような、災害の中でもさらに特定の場所や場面に対象を絞った考え方を取り入れながら、学びを深めたいと考えています。
- 今までには有名観光地としての清水寺しか知らなかったのですが、現地調査を通じて、防災面から見ると非常に危うい地域だと気づくことができました。避難をするにも一苦労な場所に、大勢の観光客が何の知識も持たず訪れるというのは非常に恐ろしいことであり、私たちの防災への興味や認知の低さを実感することができました。座学や災害図上訓練で“知ること”から始めることが防災への第一歩であると感じました。
- 清水地域の課題と対策について学び、考えることができたとても有意義な4日間でした。今後は他の歴史地区での防災対策や活動について自主的に調べながら、防災に関する知識を増やし、空論ではない実際の問題解決に繋がる問題提起やそれに対する具体的な解決策を考えていきたいです。

担当教員からのコメント

大窪 健之

昨年度に引き続きコロナ禍での開催となった。本講義は、その半分以上が現地視察やグループ演習形式であるため、とりわけ感染症拡大対策への留意が不可欠だった。また4日間の夏季集中形式のため一日でも休講となると成立が困難になることから、台風の襲来や進路予測にも聞き耳を立てつつ、荒天に備えて屋内外でのプログラムを入れ替える柔軟性が要求された。無事に所定の日程を完了できたことは、支えてくださった清水寺の皆様、特別講義を提供いただいた講師の先生方、「明日の京都」事務局やTAスタッフの方々のご尽力の賜物であり、心より感謝を申し上げたい。受講生の皆さんも、毎朝の坂登りと密度の高いスケジュール、文化的価値と防災の両立という無理難題に大変熱心に取り組んでいただいた。今後も清水寺と京都のファンであり続けていただければ幸いである。

活動資料



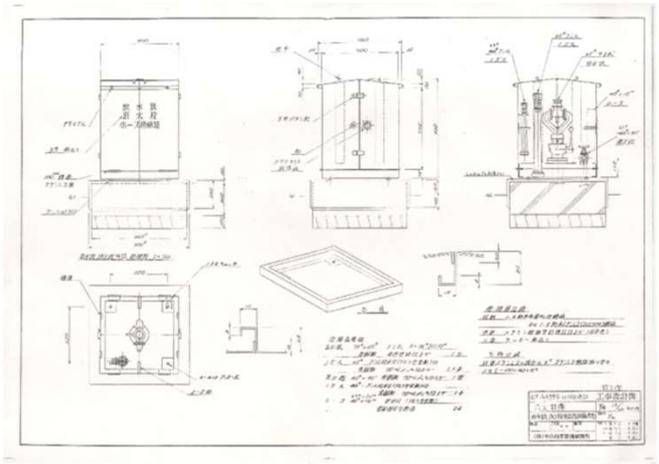
▲僧侶からの貴重なお話を直に聞き、文化遺産の価値と重要性を学んだ。



▲境内見学



▲消防設備見学・実技体験



▲消防設備の図面



▲災害図上訓練により、地域の災害危険性を明らかにした。



▲成果発表